

人材交流報告書

全国科学館連携協議会

提出日 平成 30 年 2 月 20 日

| | | | | | |
|---|--|-------|-----------|---|--|
| 所 属 | 名古屋市科学館 | 氏 名 | 山田 厚輔 | 印 | |
| 交流期間 年月日 | 平成 30 年 2 月 14 日 ～平成 30 年 2 月 18 日 | 交 流 先 | 札幌市青少年科学館 | | |
| 目 的 | 札幌市青少年科学館の展示および実演、事業などを見学し、自館へと還元する。 また、職員との交流を深め、地域性を学ぶ。 | | | | |
| 報 告 事 項 | | | | | |
| <p>◆研修日程全体を通して</p> <p>札幌市青少年科学館の職員の方々が、非常に明るく積極的にコミュニケーションを取ってきていただいたので、名古屋市科学館のことを始め、名古屋の街のことやプライベートなことまで様々なこととお話しさせていただいた。また、展示係を始め、天文係、管理係、解説員の方々から札幌市青少年科学館の現状や取り組み、課題など細かいところまで教えていただいた。また、札幌市や北海道の地域について、地元の方ならではのことをたくさん教えていただいた。さらに、実際に札幌の気候や来館者の雰囲気を生で感じることで、札幌という地域をさらに詳しく知れたとを感じる。</p> <p>また、名古屋市科学館より職員の年齢層が若く、同じ 20 代の職員が自身と同じような業務にあたっている姿は非常に良い刺激となり、様々な情報交換ができた。</p> <p>今回のような長期間の研修は、初めてなので非常に不安であったが、札幌市青少年科学館の方々の温かい対応により、非常に有意義な研修となった。</p> | | | | | |
| <p>◆2/14 (1 日目)</p> <p>館内の展示品および実演を見学し解説いただいた。展示品で特に注目したのが、人工降雪装置である。この装置は、季節によって気温や湿度が異なることで雪の作成条件が変わるため、安定して雪を作成するために工夫が必要である。また、実演系は、テレビスタジオ、サイエンスショー、ロボットショーの三種類があり、それぞれ創意工夫が凝らされていた。</p> | | | | | |
| <p>◆2/15 (2 日目)</p> <p>3 日目に行う園児のためのサイエンスショーの打ち合わせを行った。演示は百野氏と山田で行う。札幌市青少年科学館で行ったことのある実験を、名古屋市科学館で行っているショーアップした設定とし、実験の準備やストーリーの確認を行った。</p> <p>また、化学系展示について担当の三浦氏と意見交換を行った。材料系の展示が多く、様々な材料のハンズオン展示を展開していた。また、名古屋市科学館での化学系展示を紹介し、意見交換</p> | | | | | |

を行った。

また、プラネタリウムのプログラム、バックヤードを見学した。2年前に更新したため、非常にシンプルで扱いやすいシステムになっていた。

◆2/16 (3日目)

園児のためのサイエンスショーを行った。参加してくれた園児たちも元気が良く、非常に盛り上がったショーとなった。内容は、「冬まつり屋台サイエンス」と題し、祭の屋台風な演出で様々な実験をアラカルトで行った。今回はコラボショーということで、実験は、札幌市青少年科学館で行ったことのあるものをベースにした。また、屋台風の演出は、名古屋市科学館にて夏休み限定で行っているサイエンスショーの演目を参考にした。

また、サイエンスショーを担当している青柳先生からショーの概念や構成の仕方、実験道具を解説いただいた。基本は「現象を見せる」ショーである。実験道具は、ほとんど手作りであり、木工やアクリルなどをベースに、館内の工作室で加工し製作している。手作りとは思えないほど、素晴らしい出来栄の実験道具が多く、ショーのレベルを底上げしている。

◆2/17 (4日目)

大学生による科学教室を見学した。今回は、北海道科学大学が行う相撲ロボットと千歳科学技術大学のコンデンサのはたらきのそれぞれの教室が行われた。相撲ロボットは、先生が進行しながら学生が参加者の補助を行った。相撲ロボを組み上げ、最後に試合を行い、参加者は非常に盛り上がっていた。コンデンサのはたらきは、一人の学生が進行し、その他の学生が補助を行った。手回し発電機でコンデンサを充電し、風車やスピーカーを動かしてエネルギーの変換を学んだ。

ちびっこワークショップは、「ポンポンボール」を作成した。ポンポンボールは、ビニール袋にクッション材などを入れ、膨らませテーピングしたものである。屋台の水風船のようなものである。幼児～小学生を対象に100人弱の方が参加した。参加した子どもたちは、思い思いの作品を作り、遊んでいた。また、親子で参加し、協力して作り上げる様も見受けられた。

◆2/18 (5日目)

工作教室を見学した。工作教室は、毎週日曜に開催され、1時間弱の幼児から小学生を対象としたものである。作品は、講師がオリジナルで考案したもので、木や紙を材料にハンマーやドライバーを使用して組み上げていく。どの作品も仕組みが非常にしっかりしていた。

先端科学技術講座を見学した。当講座は、大学の教授など最先端の研究をしている方を講師に招き、小学生を対象とした1時間半ほどの講演会を行う。今回は、「廃熱を電気に変える」というテーマを小学生にもわかりやすい表現やアニメーションを用いて、北海道大学の教授が講演した。講演の最後には、実際に研究で行っている実験も行い、非常に充実した講座だった。

毎週日曜日に行われている実験教室を見学した。今回は、鉱石に関する内容で、顕微鏡による砂の観察や鉱物標本を触って見て観察する内容であった。内容は、講師の職員が様々な分野にわたって考案している。

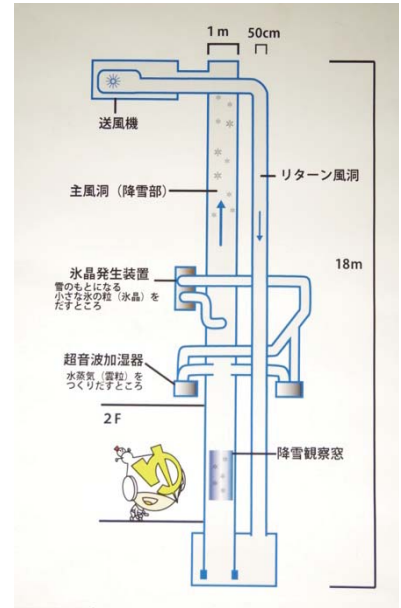
◆写真



人工降雪装置による降雪実演



バックヤードから見た装置



装置の全体像



サイエンスショー



ロボットショー



プラネタリウム内部



練習用投影ドーム



幼児のためのサイエンスショー 1



幼児のためのサイエンスショー 2



ちびっこワークショップ



工作教室



先端科学技術講座での実験



実験教室で使用した三笠産のアンモナイト

以上